

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	房総横断鉄道沿線のエコミュージアム環境整備
対象地域	いすみ市、大多喜町、睦沢町、市原市
対象地域の概要	 【房総横断鉄道路線図＝小湊鉄道＋いすみ鉄道】
提案内容の概要	前年の活動を通して、①エコミュージアムによる地域力や観光力の増強、②地元民や地元産業の元気活性化、そして観光客が満足しリピータと成り得る相互満足Win-Winを図り、③鉄道降車後の地域内アクセスのモビリティ向上を確保するモデル事業を提案している。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	●少子高齢化は、いすみ鉄道の本社のある千葉県立大多喜高校の志望者を減少させ、クラス数の減少により通学定期収入を85%に低下させている。 ●いすみ鉄道再生委員会等で協議されている施策には、鉄道グッズ、寄付金・ファンクラブ、運賃値上げ、などが盛り込まれているが、鉄道の利便性（定時性、輸送能力、環境性）を理解し、その観光価値を盛り上げる必要がある。 ●しかし、運賃値上げは単純な施策であり、さらに客離れを誘う可能性がある。したがって、地域の活性化、すなわち経済的な元気力、産業誘致・開発、定住などを図ることが必要である。それには、地域力アップ、歴史文化、そして自然の魅力を有効に情報発信し集客し、かつ満足感を与えつくることが要である。 ●そうした展開を実際に行う人材（人財）とその組織、しくみづくり、コミュニティづくりが、まさに課題である。地域に人財としての人材、地域の人材を人財にする必要がある。以下で述べる例えば、「エコミュージアム・キュレーター、コンシェルジュ、ガイド」としての人材（人財）である。
(2) 活動内容の案	活動①：エコミュージアム・キュレーター、コンシェルジュ、ガイドの養成と実践、発信 房総横断鉄道沿線のエコミュージアム活動強化 ・エコミュージアム・キュレーターの選定 ・エコミュージアム・コンシェルジュの養成と選定 ・エコミュージアム・ガイドの養成

- エコミュージアムセミナーの実施
下記の地元資源との突合せ、展開表示の企画を立案する。
- 地元の博物館学芸員（県立中央博物館大多喜城分館、いすみ市郷土資料館、睦沢町歴史民族資料館市原市埋蔵文化財調査センターほか）の学芸員の協力を得て、地域歴史文化資源についての収蔵展示、調査、整理保存資料などに基づいて、エコミュージアム活動の実施者としてのコンシェルジュと、現場案内を担うガイドの人的確保、育成を行う。
- 担い手養成
観光ボランティアの有償化を進め、人的確保のために、シルバー人材センターによる人員確保と地域への普及を進める。既往の観光ボランティアによる指導と人的拡大を行う。

活動② : Win-Win 観光の具現化と発信

房総横断鉄道沿線地域の経済的活性化をポイントカード制度、およびご当地グッズの導入により、相互満足 Win（地元側）-Win（観光客側）と先進性を実現する。

全国展開しているサイモンズ・ポイントカードを沿線地域の鉄道、商工会、ホテル・旅館組合、病院等に導入し、地域経済の活性化、ポイントカード利便の利便性向上を図る。

- ・鉄道料金のカード決済、ポイント獲得
- ・鉄道以外の支払いでのポイント獲得、ポイントでの決済
- ・例えば、マイカーのガソリン代のカード決済によるポイント獲得⇒期末残存ポイントによるいすみ鉄道支援
- ・以上のようなカード決済、ポイント利用を他地域（例えば東京、千葉、横浜、埼玉・・・）での利用を合算集積して行う。これによる期末残存ポイントを合算して、大きな資金として鉄道支援が可能で、ポイントがたつとコミュニティが形成され、地元産業、ブランドの棲み分け、地元経済への貢献が図られ、同時にいすみ鉄道支援が、全国的に可能となる。
- ・地元産物を生かした商品・商品の開発を行い、ご当地もののグッズとしてリリースし、普及させる。その候補には、20 年度に開発、展示した竹製教材、玩具を特化して展開する。工作教室、工房などでの指導展開を行う。また 20 年度の活性化提案の地域商店による商品化を進める。
- ・同じく、話題づくりとして、地域の歴史物語、伝統文化をわかりやすく観光客、地元民に伝え、定着させるイベント列車（田辺一鶴の講談列車）の運行や講座を開発する。

活動③ : エコミュージアム・アクセスモビリティの確保

房総横断鉄道降車後、観光客・来訪者が、自身でまたはガイドとともに見所の目的地までアクセスできるように軽自動車の電気自動車を導入し、利便性（モビリティ）を確保する社会実験を行う。

- ・いすみ鉄道駅前（観光本陣）に、設備し、観光客の利用を進める。
- ・人力車による町内遊覧もあるが、10km 先の寺院や雨天時には利便性がよくないので、4 人までの観光客（家族やカップル、友だち）が一度に、自身で運転し周遊できる、軽自動車タイプの電気自動車を導入する。
- ・電気自動車は、環境面からも優れており、最新の電気自動車は、充電特性、走行性（スピード、加速）もよく、満足度と先進性が高い。これ自体が、情報発信能力が高いので、利用客が高い。
- ・鉄道利用者に優先したアクセスモビリティの確保とし、その有効性と利便性、リピート性などをアンケートする社会実験（エコミュージアム・アクセスモビリティ調査）を行う。

応募団体名	洸楓座
リンク	http://www.kofuza.jp/kofuza/
部局／担当者名	座長 佐藤 建吉
連絡先	043-290-3215 / kofuza@gmail.com
推薦市町村名	大多喜町、睦沢町、市原市